



暁

◎FD.EYE
学長トークエッセイ
年頭の辞

◎FD.NEWS
人に優しい情報環境の実現を目指して
情報化基本構想—学生教育・生活支援システム構想編

◎サクセスへ 福大OBに聞く
博多人形師 小副川 祐二氏

◎研究最前線
自己実現のための教育システムの構築
免疫抑制薬の副作用回避・軽減・予測対策の構築

◎6つのサポートセンター
エクステンションセンター編

◎キャンパスライフ特集
インターネット事情



福岡大学の課外教育活動団体数

福岡大学には、全学生と教職員で組織する「学友会」があり、その中の学術文化部会に39部1同好会、体育部に42部1同好会が所属しています。また愛好会として92団体、さらに商学部第二部にも文化部会10部、体育部会9部1同好会、愛好会2団体が組織されており、その総数が197。この課外教育活動には、全学生の36%にあたる約8,000人が参加しています。このうちの多くが全国的なレベルで優秀な成績を

数字で見る福岡大学

197

収め、福岡大学の名を高めています。また、学術・文化・奉仕活動で社会的評価を受け、地域に貢献している団体も。これらの部・同好会・愛好会に所属しなくても、課外教育を体験する機会があります。それは屋久島・鹿児島での体験実習「夏期セミナー」と、阿蘇くじゅう国立公園で行われる「野外教育キャンプ」です。

皆さんの積極的な参加を待っています。

【建学の精神】
 思想堅実・穏健中正・質実剛健・積極進取

【教育研究の理念】
 「人材教育」と「人間教育」の共存
 「学部教育」と「総合教育」の共存
 「地域性」と「国際性」の共存



五ヶ村池から望む文系センター棟と薬学部棟

F^{FINE} **D**^{DREAM}
 CONTENTS

FDは、このキャンパスで在学生の皆さん一人ひとりが、美しく素敵な夢(FINE DREAM)を育んでくれるようにとの願いを込めるとともに、あわせてFUKUOKA DAIGAKUの頭文字を構成し、愛称として名付けられています。

表紙のタイトル

- 2 **《FD. EYE》**
 学長トークエッセイ
 年頭の辞
- 4 **《FD. NEWS》**
 人に優しい情報環境の実現を目指して
 情報化基本構想—学生教育・生活支援システム構想編
- 6 **《サクセスへ～福大OBに聞く》**
 私のターニングポイント 博多人形師 小副川 祐二氏
**やわらかであればあるほど、
 どんな「かたち」にもできる。**
- 9 ◎OB・OGメッセージ 夢をかなえるために
- 10 特色ある教育 商学部・薬学部
- 12 **《研究最前線》**
 自己実現のための教育システムの構築
 免疫抑制薬の副作用回避・軽減・予測対策の構築
- 14 ◎6つのサポートセンター
 エクステンションセンター編
- 16 ◎福岡大学創立70周年・薬学部開設45周年記念 薬学部棟建設募金
 寄付申込者ご芳名一覧 第6回
- 17 新刊本紹介 福大生にこの一冊!
- 18 国際交流 アジア圏協定校との学生交流セミナー 2004
- 20 ◎キャンパスライフ特集
 インターネット事情
- 22 ◎ななくま通信
- 24 ◎Fukuoka University Information
 60周年記念館(ヘリオスプラザ)



2—学長トークエッセイ



6—サクセスへ～福大OBに聞く



18—国際交流



20—キャンパスライフ



このマークは、大学基準協会が大学基準に適合していると認定した大学に対して与えるものです。



学校法人福岡大学は、外部評価の一環として「AA-」(ダブルAマイナス)の格付けを取得しました。これは、21段階ある格付けの上から4番目という高い評価で、健全な財政運営に基づいた教育研究・医療における様々な取り組みが総合的に高く評価されたものです。

知ってなるほど

福岡大学物語 第八章

福岡大学の時代へ

昭和9年4月福岡高等商業学校創立、昭和19年4月九州経済専門学校へ改称、戦後、昭和21年4月の福岡経済専門学校への改称を経て、昭和24年4月には福岡商科大学へ。そして昭和31年、「もはや戦後ではない」と経済白書が謳った年。その年の4月1日に福岡大学は誕生した。

同年、法経学部(法学科・経済学科)が増設され、こうして西日本有数の総合大学への軌跡は始まった。創立から22年後のことである。福岡大学の精神は校名こそ違え不変であった。学生諸君は本学の「建学の精神」を改めて認識してほしい。新たな道は、常にそこから始まるのである。



▲福岡大学創立時の円形迴廊
 本学の歴史を見つめてきた本館とつなぐ円形迴廊を現在も学生たちが歩く。変わるもの、変わらないもの、その良きバランスこそが福岡大学である。

写真:福岡大学大学史資料室



表紙の写真は、福岡大学が発足する直前まで使用していただるまストーブ。厳寒の中、学生たちはストーブの周りに集まり、敗戦後日本の夜明けを実感していたであろう。そして福岡大学の「暁」もまた、始まるようとしていた。

年頭の辞

明けましておめでとうございます。皆さまのご多幸と学校法人福岡大学のさらなる発展を祈念し、新春のお慶びを申し上げます。

70年の歳月を経て拡大・発展を遂げてきた福岡大学は、今後、成熟・安定へと変貌してまいります。文化の薫りと風格のある大学、次世代が憧れる大学、社会に信頼される大学として存在し続けたい。加えて、時を経てもなお色あせることない普遍性、他にはない希少性および高い純粋性を大切にいたします。

夢の実現に向けて二つ

私は、学生に対し夢を具体的な目標に変え、それに向かってチャレンジするようにと、常日頃から激励しています。

そこで新年にあたり、私の夢を二つ語らせていただきます。夢を実現するための予算はどうするかとの声も気になりますが、夢の途中であるところを容赦ください。

その一つは、「思索の小径」をキャンパス内に設置してはどうだろうかということです。それは、哲学者西田幾多郎が好んで散策し、思索にふけったといわれる京都の「哲学の道」をイメージしています。小径に沿って「せせらぎ」を設け、途中に幾つかの「ガゼボ（あずまや）」を配置し、とっておきの時間を過ごせる「思索の小径」です。

教育には、「考えること」「思索すること」が最も重要だと思っています。書物や授業などから既成概念の情報を学ぶことも大切ですが、納得がいく答えを自分自身の思索で見つけた時の喜びは、何ものにも替え難いものです。「思索の小径」を散策しながら、与えられた課題の解決だけにとどまらず、さらに普遍的な学問に昇華させるひととき、そのような光景を思い描いています。

「思索の小径」の企画・設計は、卒業研究のテーマとして採りあげ、学生に任せてはいかかかと考えています。なぜなら、本学にはそれ相当の専門分野があるからです。

二つ目は、ダイニング・サルーンです。学生食堂を超えた高級ホテルのレストランをイメージしてください。学生・教職員をはじめ外部からの訪問者が食事を楽しむ施設です。ゆったりとした雰囲気の中でおいしい食事や薫り高いコーヒーを味わいながら、教師と学生あるいは仲間同士で語り合える場を想定しています。その前景には芝生、樹々、ハーブや花々の庭が広がります。

対話を大切にする教育を、私は最良と考えています。学生に向かって一方向に話す講義だけでは、全人格を形成する効果は少ないと思うからです。教師が投げかけた問いに学生が一心に応える、適度な緊張感がたまたよう雰囲気の中で、学生は文字からは得られない多くのことを学びとるからです。大学で良き師、良き友に巡り会って自分の進路を決めたという人は数多くいます。



福岡大学 学長
工学博士 山下 宏幸
Hiroyuki Yamashita

エンrollment・マネジメントの充実

入学から卒業まで、学生の個性を見極めながら、各人の目的に合ったプログラムやサービスを提供し、学生生活を教職員一体となって支援するマネジメントを充実します。入学、履修登録、修学、就職など学生生活の各段階における多様な学生のニーズが存在するにもかかわらず、今までは担当部署それぞれが縦割りで学生のサポートをしていました。その方法に代わって、エンrollment・マネジメントは学生個人をさまざまな側面から総合的に支援することを目指します。そのために、それぞれセンター等の有機的な連携をより活発にし、横の連携を十分に行い、組織を横断的にマネジメントしていきます。実効ある教育ときめ細かな学生サービスが実現できれば、当然、大学の魅力となり得るはずです。

地域との連携強化

教育研究・医療のみならず学術文化、科学技術およびスポーツ面においても「地域に開かれた大学」を目指し、地域の内外から人々を引き付ける魅力ある大学として飛躍していきます。そのためには、地域の特性、優位性に立脚した地域イノベーションシステムを構築し、本学が、その重要かつ有効な基盤とならなければなりません。

また、これまで実施してきたキャンパス緑化推進事業を継続します。学生、患者、職員を含め、大学を訪れるすべての人々に、心の安らぎを与える緑豊かな環境を整備し、キャンパス全体を思索の場「七隈の杜」にしたいと考えています。

いつでも、どこでも、誰にでも。

学生教育・生活支援システムの構築はワンストップサービス、学生ポータル、学生情報データベースをキーワードに学生教育・生活支援分野基本構想検討専門部会の酒井健治郎部会長と同部会の山口住夫教育・教務系ワーキンググループリーダーに話を聞きました。



教務部長
酒井 健治郎 人文学部教授

特に注目したい「学生ポータル」による学びの充実
本学では新世紀の新しい大学像を求めて改革を進めていますが、これらの改革を推進する基盤として重要なのが情報化です。その中で学生教育・生活支援システムは、教育研究・図書館システムとともに、学生の皆さんが直接利用することになります。このシステムの中で強い関心を覚えるのが「学生ポータル」です。24時間アクセスできるITサービスで予習・復習、担当教員への質問など双方向のコミュニケーションが行えます。また、小テストの

実施、課題提出や教員からの評価・解答の確認が可能になります。教職員による修学指導・質問受付など、学生の修学状況に応じた支援も行えます。これによって大学教育の基本である「単位あたり45時間」の学修に大きく近づけると期待しています。またシステム構築に伴い、学生だけではなく教職員もシステムを有効に利用するための、技術を含む「心構え」が必要だと思えます。

ディレクター情報の提供スピード最適化

休講や補講、教室の変更など当日にならないとわからない情報を掲示板を見ることがなく、パソコンや携帯電話でスピーディーに知ることが出来ます。また授業の際は、入室時にIDカードを通すだけで、自動的に出席が登録されます。さらに教室の利用状況を見たり、施設の利用申し込み、行事申し込みが出来ます。(2005年から順次導入予定)

インターネットを活用した学習の効率化

学生が24時間アクセスできるITサービス「学生ポータル」を開設。予習・復習、担当教員への質問など双方向のコミュニケーションを効率的に行えます。また、教職員による修学指導・質問受付など、各種支援を予定しています。(2006年から順次導入予定)

履修計画から登録まで徹底サポート

学外からもWEB上でシラバス(講義要項)の閲覧や希望する授業の登録が出来ます。教員の履歴、業績などが検索でき、授業科目の履修計画に役立ちます。また、いつでも自分の成績を確認することが出来ます。(2007年から順次導入予定)

就職情報の提供と手続きワンストップ化

一元化されたデータベースを活用した「学生カルテ」登録により、就職登録情報、進路状況確認報告などがWEB上で出来ます。また、証紙の購入、成績証明書の申請、就職セミナーや奨学金の申し込み、健康診断書の受け取りなどが、ひとつの窓口でスピーディーに手続き出来ます。(2005年から順次導入予定)
その他、ご父母への連絡の迅速化、図書館の電子機能追加による複合サービスなど、

学生教育・生活支援システムの機能は多岐にわたります。



教務委員
山口 住夫 工学部教授



マルチメディア教室にて

Simulation!

2010年、ある福大生の一日

AM8:00



携帯電話で休講や教室の変更をチェック。これが朝の習慣。

1時限目の授業。IDカードを通すだけで、自動的に出席登録。代返なんてできないぞ。WEB上でシラバス(講義要項)を閲覧し、じっくり検討して科目登録ができた。やっぱりこの授業を選んでよかった。オモシロイ。

AM10:00



昼休みに「学生ポータル」を利用し、予習・復習。先生への質問に答えのメールが入っていた。どこでも授業中のように勉強できるのはウレシイ。

PM0:40

PM3:00

奨学金の申し込み窓口へ。ついでに健康診断書も発行してもらおう。ひとつの窓口でスピーディーにそろそろ「ワンストップサービス」はアリガタイ。就職活動も「学生カルテ」できめ細かく支援してくれる。

PM10:00



バイトを終え帰宅したら、母さんからパソコンにメールが届いていた。父母懇談会に出席するって。大学から迅速に情報が送られるので両親も安心している。

やわらかであればあるほど、
どんな「かたち」にもできる。

博多人形の最高賞である内閣総理大臣賞を二度受賞した
博多人形師 小副川 祐二氏



▼中学3年の時、自宅の工房にて。博多人形師の父と博多人形は、幼い頃からいつもそばにいた

したくなって。いちばん身近にあったのが博多人形だったんです。土くれから美しいかたちを創る、という仕事に改めて魅かれた。しかし、小副川はすぐに師の元で修行を始めるというコースをたどらなかった。彼が選んだのは福岡大学商学部だったのである。



福岡工業高校電気科3年。左から3番目が小副川。電気技師を目指していた頃。卒業後、浪人時代に進路は大きく変わる。創造的な仕事をしたかった

23歳。あいまいな夢がようやく「形」になった。
揺りかごのような大学生活だった。夢はその中でやわらかにふくらんでいく。卒業後、本格的に始めた博多人形で小島与一賞を受賞したのは23歳。夢はようやく「人形」というかたちになった。道がはつきりと見えてきた。

18歳の夏、電気科出身の少年が志望を大きく変えた。彼は福岡大学を目指した。

小副川の父は博多人形師だった。元は有田焼の絵付師であったが、戦前福岡に移り、自分の技術を生かせるという理由で人形師になったのである。人形の原型は創らず、素焼きの人形を注文し色付けをする人形師だった。「自分が創らないせいか、博多人形の創造性を尊重していたし、技術に対する理解も深い人だった」と小副川は父を懐かしむ。創造と技術。それ

は伝統工芸品である博多人形の両輪。どちらに傾いても良い作品は生まれない。そのことを自然と父から学んでいた。だが、その父から人形師になれと言われたことはない。15歳になった小副川が進路を選択する時も彼に任せきりだった。成績は良かったが、家計をおもんぼかっけて手に職をつけるため福岡工業高校に進学した。専攻は電気科。技師になるつもりだった。高校卒業後、大学を受験するが失敗。1浪の夏、転機が訪れる。「電気関係の仕事で一生を過ごすのもいいけど、やっぱり創造的な仕事か

商学の勉強に没頭した。夢は柔らかに大きく成長し、いよいよ博多人形師へ。

「博多人形というのは芸術品であると共に商品なんです。商品である以上、その流通の仕組みや販促的な面も勉強しておきたかった」と、小副川は言う。博多人形師は60歳を過ぎても本物。そのことは父を見てわかっていった。時間はふんだんにある。寄り道が肥やしになるはずだ。入学後、3年次からのゼミは「商品学」。ゼミの全国大会に備え勉強会を開き、本番では研究発表も行った。大阪や関東の学生たちとテーマについて丁々発止とやりあった。勉強への打ち込み方は半端ではない。4年次には学費免除の特待生になっている。有能な人材として企業に申し分なくアピールできる経歴である。けれども目標は最終一

弟子入りした本田広男氏の教え方は、自然流ともいべきものだった。自由に伸び伸び、叱られた記憶はほとんどない。最初の1年間は住み込み弟子として、文字通り寝食を共にした。本田自然流は手取り足取り教えるということをしらない。師の仕事を見ながら自分で学ぶ。「学が気がなければ何も学べないんです。途中でそのことに気づいて、それから自分なりに切磋琢磨しましたね」。師が人形を創るところを見て、技術よりも作品への取り組みに感じ入った。その真摯さは今で

小島与一賞受賞から始まった、長い長いターニングポイント。

も彼の脳裏に焼きついている。生来の生真面目さでめきめきと上達した。23歳には博多人形師の登竜門といわれる小島与一賞を受賞している。夢がようやく「形」になった瞬間、若き俊英としてマヌケにも、もてはやされた。けれども、そこから本当の始まりだった。博多人形師としてのターニングポイントを迎えるには、それから永い歳月が必要だった。

持続する「力なり」 小副川 祐二



profile おぞえがわ・ゆうじ

1970年福岡大学商学部卒業。
博多人形師本田広男氏に師事。23歳で博多人形師の登竜門である小島与一賞受賞。
1994年博多人形新作品展出品の「鍾馗」で内閣総理大臣賞受賞。1996年伝統工芸士認定。
2000年福岡市技能優秀者表彰。2002年博多人形新作品展出品の「太平楽」で二度目の内閣総理大臣賞受賞。



小副川 祐二作「鍾馗(しょうき)」。この題材で1994年博多人形新作品展で最初の内閣総理大臣賞を受賞している

**自然体の大切さに気づき
内閣総理大臣賞受賞。
25年の歳月が流れていた。**

小島与一賞受賞がプレッシャーになった。良い作品を創らねばならない。人気を呼ぶ作品を創らねばならない。そもそも博多人形の存在価値って何なんだ？理屈ばかりが先に立つ。肩ひじはって土に向かう。そうして創った人形はなかなか受け入れられない。歳月は流れ去った。結婚し、子どもが生まれた。転機はゆっくりと訪れた。それまで「美人人形」を主に創ってい

夢をかなえるために

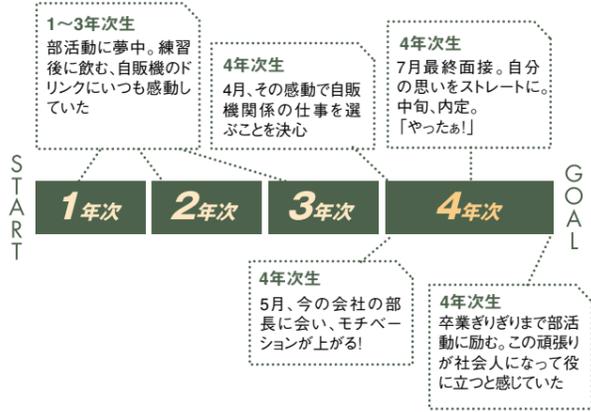
結局は、自分がやってきたこと、やりたいことを伝えるのがいちばん。

私は重量挙げ部に所属していました。練習が終わった後、自販機でドリンクを買いみんなで飲むのですが、そのおいしいこと、ありがたいこと!それがあるだけで気持ちが和み、話が弾みます。その頃から、自販機関係の仕事に就きたいなと思っていました。重量挙げで鍛えた体も生かせますしね。本格的に活動を始めたのは4年次になってから。本学で行われた合同会社説明会で弊社の部長に会い、励まされたことが大きなきっかけになりました。面接では、小さい頃からスポーツを続け体力や元気の良さは誰にも負けないことをストレートにアピールしました。結局は、自分がやってきたこと、やりたいことを伝えるのがいちばん良いですね。私は目標を立てると、それを紙に書き目立つ所に貼っていつも見っていました。就職の時もそう。落ちこんだ時にそれを見ると初心に返ることができるんです。これはなかなか効果的です。皆さんも試してみてくださいいかがですか。



齋藤 要さん
体育学部体育学科 2001年卒業
南九州キャンティーン(株)熊本東営業所

私のサクセス・スケジュール



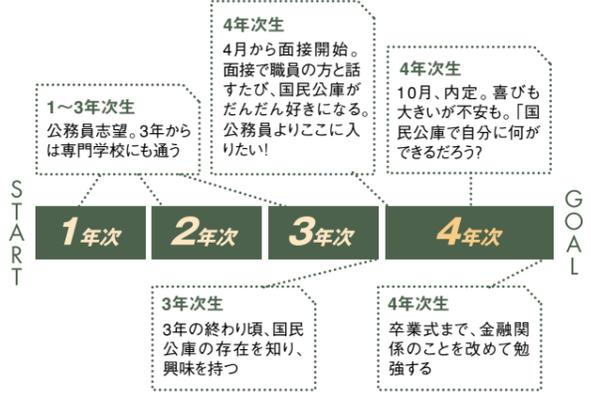
面接は自分をアピールすると同時に、企業の熱意や心を私たちが知る場。

1年次の時から公務員志望で、それに向けての勉強をしていました。3年次からは公務員試験のための専門学校にも通って。今ならエクステンションセンターに行くでしょうけど、私はその存在を知らなかったんです。もったいないですね。そのうちに国民公庫の存在を知り「地域の中小企業を支援するのもやりがいのある仕事だな」と思い始めました。父が会社の経理をしていたので資金繰りの難しさを身近に感じていたこともあります。国民公庫は面接重視です。何回も面接を受けているうちに、職員の方の仕事にける熱意に打たれ「この仕事に就きたい」という気持ちがどんどん膨らんでいきました。公務員になる気持ちは、もう消えていましたね。面接は自分をアピールすると同時に、企業の熱意や心を私たちが知る場でもあります。当たり前のことですが、忘れがちなことです。皆さんも面接の時、逆にその企業を面接している気持ちで臨んでみては。余裕が生まれると思います。



網屋 政志さん
法学部法律学科 2002年卒業
国民生活金融公庫 鹿児島支店

私のサクセス・スケジュール



2005年の干支人形の絵付け。小副川が会長をしている「白彫会」は毎年新作展を開催している。人気の商品を開発するのも大事な仕事だと彼は考えている



博多人形の更なる可能性へ。土はまだやわらかい。夢はまだかたまりません。

2002年には「太平楽」で再び内閣総理大臣賞受賞。博多人形師としての名声は確立した。それでもまだまだ、と小副川は言う。「博多人形師は60歳からが勝負。これからの10年、15年のために永い歳月をかけてきたんです」。

若い時のように、もう自分を追いつめたりはしない。余裕を持って、融通無碍の精神で。人形は創り手の心がすぐ出る。人形は「心形」なのだ。「売ろう」として創った作品は売れないですよ(笑)。

小副川は現在、博多人形師の集まりである「白彫(はくちよう)会」の代表を務めている。後進の育成や現代のニーズに合う博多人形の研究に余念がない。「博多人形にいちばん合う場所は床の間なんです。ところが今の住まいから床の間は消えつつあります。ではどこに置くか。現代建築で床の間のスペースを作れるのが。商学部で学んだ経験が生きている。小副川には博多人形を商品として考える目がある。一方でまた芸術品としての価値も正しく認識している。「結局は本物が持つ力こそがすべてだと思う。良い人形から伝わる慈悲とか愛は、人間の心の原点です。顔とか衣装とかを現代的にしても、それは小手先にすぎません」。創造と技術。芸術と商品。複眼的ビジョンを養うことで、小副川は博多人形の本質をつかみえた。そして次のステップへ、熱い心をたぎらせる。土はまだやわらかい。夢はまだかたまりません。



遊びでもいい。勉強でもいい。大学時代には何でもいからできるだけ「吸収」してください。のんびんだりして過ごしては、本当にもったいない時間なんです。それから夢を急いで固まらせないこと。具体的に小さくしないこと。枠にはめると、その分しか「吸収」できません。それから「恥」をどどんかいてください。若い時にかけた「恥」は人間を大きくします。うちに熱いものを持って頑張ってください。一生懸命やれば「恥」をかくことも多いですが、それでいいんです。あなたの頑張り誰かがきっと見てくれています。



大学1年、右端が小副川。「生真面目で何事にも熱心」だった彼は、商学を懸命に学んだ。それが現在でも大きな力になっている



大学1年、父と有田焼の窯を訪ねる。小副川の父は元来、有田焼の絵付師であった。親子二代「匠」として人生を歩む



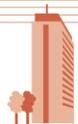
2002年博多人形新作展出品の「太平楽」で二度目の内閣総理大臣賞受賞。りりしさの中にも、なにかほっとするような優しさやふくらみが漂う

ところでコラム 学びの集大成はゼミや研究室。

小副川さんが「大学時代でいちばんの思い出」と話されていたゼミ。福岡大学には多彩なゼミや研究室などがあり、学生たちの学びの集大成となっています。ここで専門的に学び、卒業論文や卒業計画作成で結果させます。福岡大学のゼミや研究室の特長は、少人数教育を原則としたきめ細かな指導。スケールの大きさだけが本学の魅力ではありません。



▲各自のテーマについて発表する学生たち



各学部の特徴ある教育



各学部の特徴ある教育

学生たちの資質を伸ばす 福大ならではの個性を磨く

私たちの大学をオンリーワンにしているのは、総合大学としての連携とともに各学部・学科独自の教育です。このシリーズでは、そんな特色ある教育を紹介していきます。

Faculty Of COMMERCE

社会的起業家育成プログラム 商学部



give kids the worldでのボランティア活動



サンフランシスコでのNPO
インターンシップ活動

たちの理解や認識は着実に深まっています。なお、講義としては継続しますが「特色ある教育」プログラムとしては今年度で終了します。

○実践的な活動をしている外部講師の講話やディスカッション
○NPO・NGOの現場やインターンシッププログラムへの参加
○大学以外の実務家や市民に情報を発信し学習の場を提供するためのワークショップ開催
○NPO、NGOと連携したフォーラム、セミナー、ワークショップの企画・運営・開催などです。実施から4年目を迎え、受講生

例えば、日本で最悪だといわれる福岡市・天神の放置自転車、あるいは食品のラベルや中身の偽装、不景気、地球環境汚染…。身近なことから地球規模のことまで、政府や企業だけでは解決しない問題が現代ではますます増加しています。そこで期待されるのがNPO(非営利組織)やNGO(非政府組織)の活動。これらの組織で、現代社会におけるさまざまな課題をビジネス的なセンスとノウハウを使って解決しようとする人々が、社会的起業家(ソーシャル・アントレプレナー)です。福祉・教育・環境・文化などの公益市場を事業領域に、世直しの新たなサービスを供給する「社会的起業家」たちは、これからの社会づくりの担い手として大きな注目を集めています。商学部ではこのニーズに応え、社会的起業家を目指す人に求められるノウハウ・体験を提供するプログラムを2001年から実施しています。具体的には、



大学の中にも身に付かないことを体験して、学生自身が新たな可能性を認識し模索してほしい、と語る田村商学部教授

Faculty Of COMMERCE

ビジネス・リテラシーを目的とした学科導入教育インスティテューションの構築 商学部



大学4年間の成長は1年次に決まる。押し付けの東アジア型教育から、学生主体の21世紀型教育を構築したい、と語る中塚商学部助教授



チュードント・アシスタントの先輩が、1年次生を1人ひとりサポートしている



ハウステンボス株式会社から直接
ビジネス・ミッションを送られる

この教育の目的は高校から商学部商学科への橋渡しとして、ビジネス・リテラシー(基本)を商学科1年次生全員に修得させることにあります。具体的には問題発見・解決力、チームでの協調力などであり、「商学基礎ゼミ」を中心にチュードント・アシスタントの先輩を交えて一人ひとり丁寧に指導します。教育は5本の柱から構成されています。
①学習スキル・独自に作製したテキストを中心に学生のスキルアップを図る
②商学科導入教育支援システムの開発
③チュードント・アシスタントプログラムに基づく少人数ゼミ
④インセンティブ・システムの構築―導入教育インターンシップと天神サテライト・ゼミの実施
⑤教育者間FDと地域社会連携
④については、「街へ出よう」を合言葉に福岡の都心・天神に出て、最先端のファッションやベンチャー・エンターテインメントを生きた教材にします。その一環として、OBである劇団四季九州公演本部長の松崎氏に現場で話を聞くプログラムなどがあり、この試みは社会的に注目されています。最後の柱は、

Faculty Of PHARMACEUTICAL SCIENCES

高度な薬剤師養成に向けた教育システム構築の試み 薬学部

学生たちはネットワークとコンピュータで薬学について効果的に学び、タイムリーな教材の提供と、きめ細かな学修指導を受けることができます



を進めています。このシステムを用いて各年次の学生に必要なマルチメディア教材を作成し、さまざまな教育場面で効果的に活用します。また学習記録の管理・分析を行うことにより、個々の学生に対し、的確な教育指導を行うことも期待されます。

①薬学に対する目的意識の低下
②基礎学力の低下
③薬学専門教育の高度化
④についてはネットワークから医療現場の情報を知って目的意識を高めてほしいと思います。また、②と③は大きな課題であり、学習到達度の高い学生にはより高度な専門教育を、また低い学生には基礎から習熟させる教育が必要です。そこで、各年次の講義、講義後の復習、薬学演習、補習授業などさまざまな教育場面において、ネットワークとコンピュータを活用した、教員と学生双方へのインタラクティブな教育システムの構築

医学・薬学の進歩による新薬の創製、医薬品の種類や使用法の多様化、さらに医薬品の安全性や適正使用に関する国民の関心の高まりなど、薬学および薬剤師を取り巻く環境は大きく変化しています。また薬剤師は調剤技術的な役割に加え、医療チームの一員として積極的に医療に参加することが求められています。それに応えるために薬剤師は、今まで以上に高度な理念と技術を持たなければなりません。薬学部ではこの課題への取り組みの環として、新薬学部棟建設を機にネットワークとコンピュータを活用した新しい教育指導方法の開発と運用を進めています。もう少し具体的に話しましょう。今、薬学部の現状課題として挙げられるのは

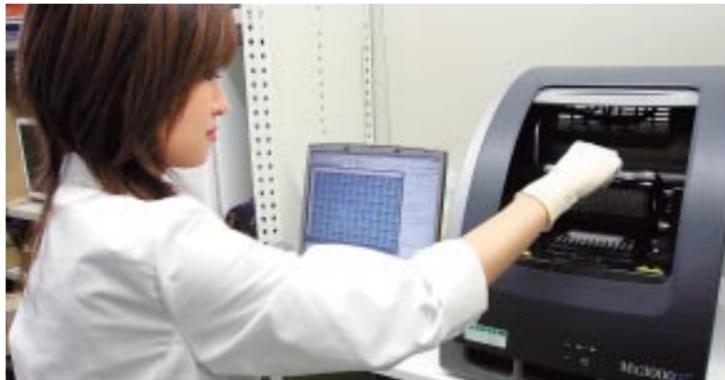
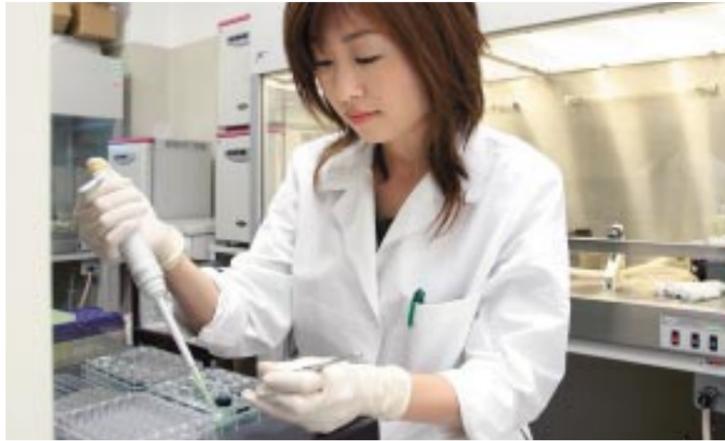


マルチメディアを活用することにより、視覚で早期に医療現場を知り、医療人としてのモチベーションを高める効果も期待できる、と語る山口薬学部教授

福岡大学研究推進部の研究を紹介するシリーズ。今回は「自己実現のための教育システムの構築」と「免疫抑制薬の副作用回避・軽減・予測対策の構築」を紹介します。

免疫抑制薬の副作用回避・軽減・予測対策の構築

脳関門(BBB)モデルを作製し、免疫抑制薬の透過機序を探る



最新鋭の遺伝子解析装置。免疫抑制薬と遺伝子の関わりを研究する

薬剤師に要求される副作用の早期発見と回避・軽減対策
薬剤師が患者さんの薬学的ケアを行う場合には、その効果と副作用の両面を十分に検討し、薬物治療の有効性を評価することが大切です。医療チームの中で薬剤師に特に要求されていることは、副作用の早期発見と回避・軽減対策を組み立てることです。つまり薬剤師の最も重要な責務は、薬物治療のリスクマネージャー＝安全管理者として活動することです。片岡教授を中心とするグループも、このような薬剤サービスの「モデル」を提案することができるよう、研究活動を行っています。本研究もそのひとつです。

臓器移植の拒絶反応は抑えるが副作用も軽くない免疫抑制薬
臓器移植の大きなポイント、他者の臓器が移植された時にいかにその臓器の拒絶反応を抑えるかということです。1972年、ポレルが拒絶反応を抑えるための免疫抑制剤効果を発見し、1978年にカーンによって臨床応用されたシクロスポリンは、移植後の致命率を大きく改善し、さらに移植後の患者さんのQOL(生活の質)を改善しました。さらに1990年代にはタクロリムスなど多数の有効な免疫抑制剤が発見・開発され、臨床に活用されています。しかし、免疫抑制薬は腎・肝・中枢性副作用も大きく、震え・けいれんなどの発生率は30%

副作用を起こす危険因子を研究 医学部との密接な連携
免疫抑制薬は血液の脳関門(BBB)を透過し中枢性副作用を起こすかどうかは明らかではありません。そこでBBBモデルを作製し、実験を繰り返すことで透過機序の仮説を立てることができました。また、免疫抑制薬と遺伝子との関わりにも取り組まれました。その結果、eNOS遺伝子型b/aの人はNO(酸化窒素)産生量が低く、従って中枢毒性発現の可能性は低く、腎毒性発現の可能性が高いという仮説を得ました。このように遺伝子との関わりを明らかにすることで、副作用の標的となる遺伝子が解明されつつあります。将来、副作用を予測できる遺伝子診断キット作成によりパーソナルオーダーメイドの医療を行うことが期待されます。これらの研究により血液脳関門調節物質や遺伝子多型、さらに更年期などの疾患による免疫抑制薬の副作用を起こす危険因子がようやく見えてきました。今後とも医学部との連携により、さらに進んだ研究を行っていく予定です。

研究代表者
片岡 泰文 薬学部教授
1979年 九州大学大学院
2001年から薬学部教授
専門:薬学疾患管理学

自己実現のための教育システムの構築

「あいさつはできているか」など、細かく項目が分かれた「相互評価システムシート」



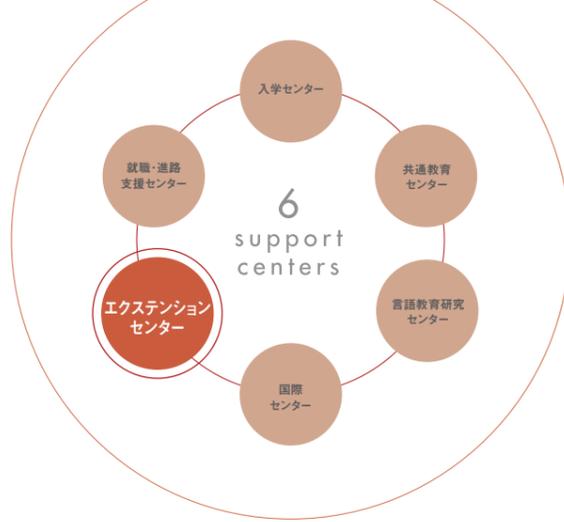
新しい教育システムによる授業風景。学生が自ら企画・運営している

学生たちの自己を実現するために自分を好きになる仕組みを創る
経営者あるいはリーダーとして「魅力のある人」とは、どんな人か。それは端的に言えば「自分より能力のある人を使いこなす」能力だと言えます。他人の能力を素直に認め、嫉妬心などに邪魔されず適材適所に使うことは、何より自分に対する確たる自信が必要です。その自信はまた、人を引っ張っていく経営者・リーダーとしての魅力になります。そのような自己を実現するための教育システムの構築が、この研究のテーマです。もっとわかりやすく言えば、自信を持つ＝自分を好きになる仕組みを創造するための研究です。研究チームはその大きな柱として教育システムの変革を試みています。

押し付けシステムではなく学生自身が講義を運営する
かつて世界を席巻した自動車会社フォードのシステムはプッシュ(押しつけ)システムというものでした。まず製品を作り、それをある種の絶対的価値として消費者に販売していくのです。しかし最近では、トヨタ自動車のプル(くみ取り)システムが大きな注目を集めています。これは消費者のニーズをくみ取り、消費者が欲しいものを、欲しいときに、欲しいだけ生産販売するもの。研究チームが試みた教育システムは、このトヨタ方式に沿うものでした。つまり教員の一方的な講義ではなく、学生自身が自らのニーズのつくり、講義を会社組織のように運営するのです。教員は学生が何をやりたいかをくみ取り、それが金融であれば金融関係にインターンシップに行

研究代表者
阿比留 正弘 経済学部教授
1985年 筑波大学大学院
1993年から経済学部教授
専門:産業組織論

他人がどう見ているかを知る 相互評価シートの開発と活用
しかし「独走」では人はついてきません。「コミュニケーション」を円滑にするためには自己の評価とともに他人の評価も必要となります。そこで研究チームは「相互評価システムシート」を開発し、講義での発表などの際に自分の評価と他人の評価を明快に見比べることができるようになりました。自分自身は高く評価していたものが他人には低いものであったり、また逆のこともあります。学生たちはこうして「より確かな自己実現」「自信」と「他者への素直な認知」を身に付けていくのです。これは就職の際に大きな武器となるでしょうし、人間としての基本―素直な感謝の気持ちを持つことにもなります。研究チームではこの教育システムをより精密にシステムチェックにして、教育の世界基準にすることを目指しています。



皆さんが将来を真剣に考えることができるように

学生の皆さんの入学から卒業まで、さまざまな情報提供を基本に一人ひとりをサポートする6つのセンター。教育体制の一環として整備しているこのセンターを毎号紹介しています。第4回目はエクステンションセンターと、6つのセンターの総括です。

エクステンションセンター A棟地下1階

スキルアップ、資格試験合格、生涯学習…。人生の可能性を広げる (Extension)



受講講座を納得のいくまで復習できるビデオブース



講座風景。講師の熱意と受講生の真剣さ、充実の時間を生む



好評を博している「福岡大学市民カレッジ」

皆さんへのメッセージ

さらに高い目標に到達するために



エクステンションセンター長
本田 知宏 工学部教授

大学生として大事なことは、人生の目標をしっかりと見定めることです。その目標に確実に近づく最良の方法が、大学の「正課」を時間をかけて真剣に勉強することです。さらにそのうえで、もっと高い目標を目指すために「正課外講座」、すなわちエクステンションセンターがあるのです。センターには現在、約6,000人の受講者がいます。これは本学の1つの学部の人数をはるかに超えるものです。しかし私たちは現状に満足せず、より高い目標を掲げてさらなる努力を行うつもりです。個人的には本学の設立過程を考えたらうで、多くの公認会計士、税理士を輩出すること、市民カレッジをさらに充実させること、プログラムや講師のより緻密なチェック…。簡単なことではありませんが、目標に向けての歩みは止めないつもりです。

皆さんの今と、卒業後までもサポートする6つのセンター

福岡大学では、豊かな人間性と深い専門性を持った人を育てることを目指し、教育研究の理念・目標を実現するために、6つのサポートセンターを設けています。このセンターが連携しながら多彩な教育プログラムを提供しているのです。また、総合情報処理センターなど、充実した施設とシステムも皆さんの現在と将来を幅広く支えています。

<p>■入学センター 受験生・父母・教師の方に、一般入試はもちろんAO入試、推薦入学、社会人入試など、多彩な入学情報を提供。</p>	<p>■共通教育センター 総合大学としての特色を生かし、学部・学科の枠を超えた「共通教育科目」を推進。指導や開発研究も積極的に。</p>
<p>■就職・進路支援センター 個別指導・就職情報提供など、就職・進路決定のための支援を多角的に推進。</p>	<p>■言語教育研究センター 英語・ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語・スペイン語・ロシア語などの語学力向上を目指し、コミュニケーション重視の言語教育を実施。</p>
<p>■エクステンションセンター キャリア支援講座や資格取得などの正課外講座と、社会に開かれた福岡大学市民カレッジを設置。</p>	<p>■国際センター 交流協定を結んだ海外の各大学との連携のもと、外国留学を目指す学生をきめ細かにサポート。</p>

にわたっています。高齢化社会の今、生涯にわたり学ぶ姿勢、学びのテーマの発見は、人生において大きな価値があります。本学は培われた知を開放・公開することで、社会人の方の、そのような前向きな気持ちをサポートしていきます。

自分の価値をより高めるために、あるいは自分の不足したものを補うために、なにが必要かを考えましょう。その考えの先には、あなたのためのエクステンションセンターがあります。

生涯学習の一助として「福岡大学市民カレッジ」

エクステンションセンターの、もうひとつの柱は「福岡大学市民カレッジ」です。これは、主に社会人の方(学生の皆さんの受講も大歓迎です)を対象にした講座。英語をはじめとする総合語学、「サクセスフル・エイジング」と名づけられた教養講座、ブランチアップ、ビジネス金融経済、子ども教育、リカレント教育・指導者養成、健康・スポーツなど、そのジャンルは多岐

特定の内容を短期間で学ぶ「正課外講座」

エクステンションセンターは、福大生はもちろん、OB・OGや一般社会人のキャリアと資格試験合格をサポートする機関として誕生しました。Extensionとは、拡張・拡大のこと。つまり、就職試験対策や資格取得などでキャリアアップを図り「自分の人生の可能性」を拡げることです。また「一般の方に対し、本学の持つ知的資源を「開放・公開」という意味もあります。具体的には、まず主に福大生を対象にした「正課外講座」があります。これは、公務員試験や教員試験対策の講座、英語力向上講座、国家試験講座、コンピュータ資格講座、スキルアップ講座など多彩な専門講座です。講師陣は本学の教員や卓越した専門家を厳選しており、またスタッフが講座での教え方を絶えずチェックするなど、講座の質の向上を常に図っています。また、講義収録テープのダビングサービスや、講義ビデオを視聴しながら独習できるビデオブースなどの設備で、受講生の学びの向上をきめ細かくサポートしています。学外の専門学校等に通うことに比べキャンパス内にあるため時間を合理的に使える、それらのスキルに比べると受講料が比較的安いなどのメリットも見逃せません。

International Seminar for the Students from Sister Universities in Asian Region, 2004



TOPICS



アジア圏協定校との 学生交流セミナー2004

古くからアジアの玄関口として開かれた福岡。この地にある本学は近年、アジア地域との国際交流にも力を注いできました。その一環として10月18日から29日まで開催されたのが、この「アジア圏協定校との学生交流セミナー」です。

多彩な交流行事や研修を通して、互いの理解や知識を深める

現在、本学はアジア圏では中国・中国（台湾）・韓国・インドネシア・ネパール・フィリピンの5カ国（6地域）13大学と交流協定を結んでいます。これらの協定校とは、すでに交換留学や短期研修を行っている一部の大学を除いて、経済的な問題などにより学生交流プログラムの実施が難しい状況です。そこで本格的な交流の第1歩として、アジアの各協定校から学生を招き、本学生・市民との交流を深めるために、このセミナーが企画されました。記念すべき第1回のセミナーには12大学から23人の学生が参加しました。

水俣病資料館や長崎原爆資料館見学も含まれたスケジュール

12日間にわたるセミナーでは、伝統的な日本文化の研修や市民を交えた文化交流のほか、水俣病資料館や長崎原爆資料館の見学など、見過ごしてはならない日本の現代史や社会問題の学習も盛り込まれました。水俣病資料館見学では「人間は環境と仲良くして付き合っていかなければならない」ということを改めて認識した（中国からの学生）という感想、長崎原爆資料館見学では「平和のために、国を越えて私たち一人ひとりが生をかけて守ろうとする努力が大切（韓国からの学生）」という感想があるなど、こちらの意

オープンマインド——参加者同志のふれあいの輪も広がって

公式プログラム以外の自由時間では参加者同志の交流の輪も広がりました。セミナーハウスの「OFURO」にゆっくりとつかってのおしゃべり。学食での楽しい昼食（メニューが豊富でおいしいと評判でした。豚骨ラーメン、お寿司、キャナルシティでのショッピング…。そんな時の学生たちは、子どものようにイキイキと楽しそう。忘れられない思い出になったようです。29日の歓送会で、田中国際センター長からセミナー修了証書を渡された皆さんの顔は、とてほろりしく輝いていました。



ヘリオスギャラリーでの歓送会



福岡市内・太宰府見学研修



国際交流を深めるセミナー



茶道を楽しみながらの国際交流



茶道の文化研修



太宰府の歴史を熱心に聞く学生たち

International Seminar for the Students from Sister Universities in Asian Region, 2004



国際センター長 田中 俊宏 経済学部教授

このセミナーが、アジア圏交流のきっかけとなるように

セミナーを通して感心したのは、彼ら彼女らのレベルの高さでした。本学の教授陣と各人が専攻する学問について対話する機会を設けたのですが、高度なレベルには皆、驚いていましたね。しかも非常に熱心で。福大生も見習ってほしいものです（笑）。

全般に国際人としての意識も高く、こんな若者たちと本学の学生が深く交流できたらなと改めて感じました。経済的な問題や認識の違いなどクリアすべき問題はありますが、このセミナーがアジア圏との本格的な教育交流のきっかけになればいいと思っています。

1月 冬季休業終了(5日)

後期授業再開(6日)

後期授業終了(13日)

大学入試センター試験(15・16日)

後期定期試験(17日～27日)

2月 学部留学生入試(2日)

一般入試・前期日程(本学・地方4日～12日)

成績発表(4年次生以上ほか)

医師国家試験(19日～21日)

大学院春季入試(20日・22日～25日)

一般入試・前期日程合格発表(22日)

一次学士合格者発表

交換留学生派遣(中国・中国(台湾)・韓国)

海外研修生派遣(米国・豪州)

海外春期中国語研修生派遣(中国)

3月 大学院春季入試合格発表(7日)

一般入試・社会人入試・編、転、学士入学・後期日程(8日)

一般入試・社会人入試・編、転、学士入学・後期日程合格発表(16日)

二次学士合格者発表

学部卒業式・大学院学位記(修士号)授与式(22日)

大学院学位記(博士号)授与式(23日)

成績発表(在学生)(下旬)

医師国家試験合格発表(30日)

4月 入学式(2日)

前期授業開始(9日)

今や「ITなんて当たり前!」の時代。確かに社会全般はそうですが、大学キャンパス内はというと、それほど進んでいないのが現状。でも、本学は違います!超高速LANのキャンパスネットワークを基盤に学生なら自由に使えるパソコンが約800台。さらに教室・図書館などへの情報コンセント設置や、ビギナーへのサポートもしっかり。



実習室

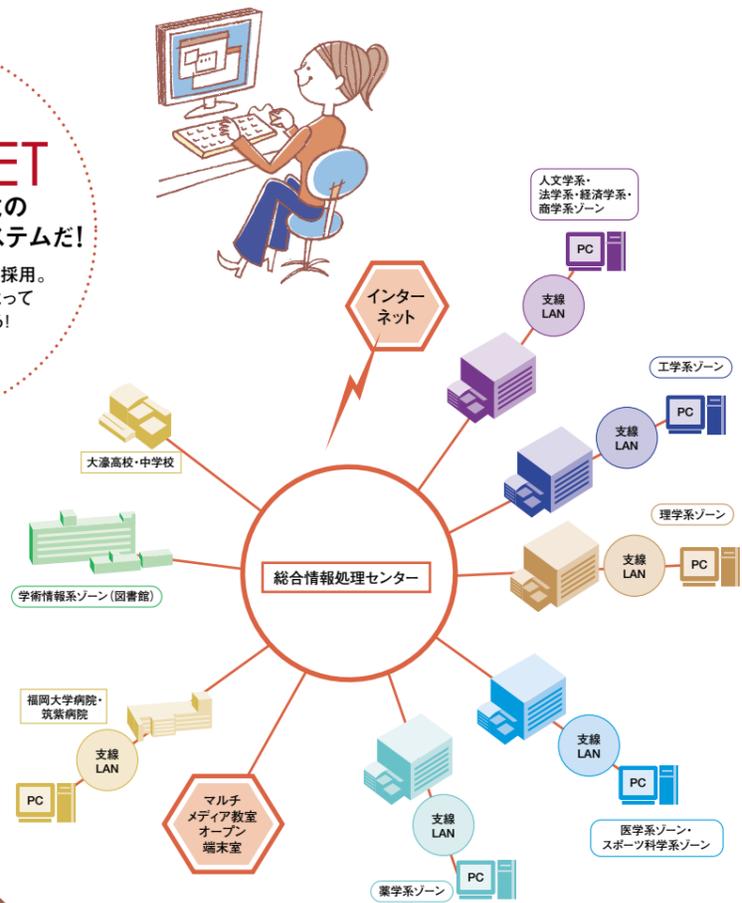
利用者支援室&アシスタントスタッフ

総合情報処理センターでは、施設の利用方法からコンピュータ全般にわたる、利用者の相談を受けています。また、大学院生の「アシスタントスタッフ」が相談員となり、利用者をサポートしています。この特集の専門用語がわからないビギナーのあなたも、気軽にチャレンジ!

STAR★NET

これがスター型構成の福岡大学ネットワークシステムだ!

パソコンはWindows系OSを採用。さらにマルチブート方式によってUNIX系OSも使用できる!



これから本学の情報環境は基本構想の推進(本号4・5P参照)によって、ますます充実します。他大学に先駆けた本学のインターネットシステムをご紹介します。

本学が誇る超高速LANの愛称はFUTU RE(Fukuoka University Telecommunication Utilities for Research and Education)。その名の通り、学生や研究者のための未来志向の高速通信網です。この超高速LANを基盤に、約5,000台のパソコンやワーク

ステーションが学内ネットワークに接続されています。また、総合情報処理センターに九州の私学では初の20個のスカラCPUを持って高速演算サーバを導入。あわせて大容量のファイルサーバや情報処理教育のための多くのサーバを設置しています。

学生に開放された実習室

総合情報処理センターの各実習室では、すべてのパソコンでインターネットアクセスが可能。Eメールはもちろん、映像・音楽なども高速・大容量で送受信できます。また、多様なソフトウェアも充実。例えば一部のパソコンには英語および中国語のソフトを導入し、留学生も利用できるようになっています。

学内8カ所にオープン端末室

皆さんが自由に利用できるオープン端末室をキャンパス内8カ所に開設。それぞれにパソコンやプリンタを設置しています。さらに、約2,100口の情報コンセントがキャンパス内にあり、利用者は個人のパソコンを接続し、ユーザー認証を行うことで、WEBページの閲覧やメールの送受信ができます。



オープン端末室

インタビュー



奥から工学部の手島さん、大学院生の高井さん、工学部の川島さん

キャンパスネットワーク、結構いいところあります!

アシスタントスタッフの高井さん(大学院2年)は「使いやすいシステムですね。みんな覚えるのが早いですよ。強いて欠点を挙げれば速度はイマイチかな。あとUSBももう少し欲しいですね」とコメント。工学部3年次の手島さんは「ネットワーク環境なら90点。対応OSとか、もっといろんな点でバージョンアップしてくれるといいですね」。同じく3年次の川島さんは「80点かな。ウイルス対策をもっとしっかりできると100点(笑)。でも総合情報処理センター内のカラーレーザープリンタなど設備が充実しているところがいい」。三人三様ですが、キャンパスネットワークへの満足度はみな高いようです。

より使いやすいシステムを目指して。

当センターでは、学生の皆さんにやさしい使いやすしいシステム作りを目指しています。

大学の高度情報化構想がいよいよスタートした今、「人にやさしい」情報環境は総合情報処理センターにとっても大きなテーマです。また、教室環境の充実も大切だと思えます。平成17年9月に稼働する次期教育研究システムのパソコン教室では、1人に1台のパソコン、2人に1台の中間ディスプレイ、さらに数台のフラッグディスプレイを備えるように準備を進めています。

センターの中心はあくまで学生の皆さんです。これからも皆さんの反響や意見を参考にしながら、ITを中心としたキャンパスネットワークを進歩させていきたいと思います。

News!

今春4月から本学HPリニューアル!

もっとわかりやすく、もっと見やすく、情報は豊富に。福岡大学のホームページがリニューアルします。ケータイからもアクセスできるなど便利さもバージョンアップします。ご期待ください!



(開発中のため変更になる可能性があります)

学園のうれしいニュースや
トピックスを大公開!!

七隈祭を、KBCテレビが取材!

10月31日から開催された学園祭は昨年也大盛況!七隈祭にはKBCテレビが取材に訪れ、学生たちの元気とやる気をいっそう駆り立ててくれました!



第57回全日本スナイプ級ヨット選手権大会で、1位2位を独占!

11月14日に愛知県で開催された第57回全日本スナイプ級ヨット選手権大会で、本学の加原和洋・上田真聖選手ペアが優勝、吉岡岳史・古川司選手ペアが準優勝。1位2位独占の快挙を成し遂げました。

女子学生のための防犯対策講習会を開催

12月8日、831教室で行われた講習会では、西警察署生活安全課の方を講師に迎え、ストーカーや痴漢などの犯罪被害の状況と防犯知識に関する講演とビデオを上映。

また、山本華世さんをゲストに迎えての「防犯に関するフリートーク」も行われました。



交通安全セミナーを開催

学生部主催により11月20日に831教室で行われたセミナーには832人が参加し、西警察署交通管理官の講話や映画に熱心な反応を示していました。バイク・自動車による交通事故が多発している中、今一度、交通事故についての認識と安全に関する注意を深める目的は、十分に達せられたようです。



ラモス瑠偉氏を迎え、学健講演会を開催

11月17日、本学AB01教室で第33回学健講演会が開催されました。今回の講師は、サッカーの日本代表として活躍され、現在は指導者として日本サッカー界に貢献しているラモス瑠偉氏。「サッカーが教えてくれたもの」と題した熱い講演に集まった多くの聴衆が熱心に耳を傾けていました。



サッカー部から3人、Jリーグ入団内定!

入団が内定したのは田代有三選手(鹿島アントラーズ)、川田和宏選手(大分トリニータ)、長野聡選手(アビスパ福岡)の3選手(共にスポーツ科学部)。12月7日に合同記者会見が行われ、熱く抱負を語っていました。



第41回マンドリンクラブ定期演奏会を開催

11月27日、ももちパレスにて本学マンドリンクラブ定期演奏会が開催されました。41回を迎える今回はベートーベンの交響曲8番をとりあげるなど意欲的なプログラムで会場の観客から大きな喝采を浴びていました。



理学部チーム、「日本油化学会エディター賞」を受賞

2002年、本学理学部の杉原剛介教授(当時)、永留重実助手、理学部4年次生だった中島乃里子さんら6人で発表した論文「水溶液中の混合界面活性剤系の吸着とミセル形式」が今年度の日本油化学会エディター賞を受賞しました。現在大学院理学研究科2年次の中島さんは「私の卒論がこんな名誉ある賞をいただき、正直びっくりしました。今春からの社会人生活の励みになります」と嬉しそう。受賞はここ数年で3回目となり、理学部の研究の質の高さを証明しています。

受賞の喜びを語る中島乃里子さん▶



田口スポーツ科学部長、日本水泳連盟功労賞を受賞

10月23日、田口正公スポーツ科学部長が、学生水泳界での長年の功績に対し日本水泳連盟功労賞を受賞されました。



筑紫病院病理部、岩下助教授が第10回白壁賞を受賞

9月15日東京で開催された早期胃癌研究会において、「Mesenteric phlebosclerosis-A new disease entity causing ischemic colitis」(Disease of the Colon and Rectum 46:209-220,2003)の論文が静脈硬化症による虚血性腸病変を新しい疾病単位としてとらえることを世界で初めて提唱したもので、英文論文として海外でも認められているとして、その功績を評価され受賞されました。

商学部第二部、社会人コース履修生募集

本学商学部第二部商学科では、社会人教育・生涯学習に対する社会のニーズに応えるため、企業に勤める会社員、中間管理職、経営者層を対象にビジネスマネジメントを体系的に学べる社会人コースを設置。平成17年度からの履修生を募集しています。詳しくは、商学部事務室にお問い合わせください。

キャンパス緑化推進キャンペーン

本学では緑豊かなキャンパスづくりを目指し、2001年よりキャンペーンを推進しています。これまでに皆さまのご協力のもと、214本を植樹してきました。本年は、文系センター棟前広場に植樹する計画です。皆さまのご賛助をお願いいたします。

申込先:本学企画部企画課
TEL 092-871-6631(内線4615)
E-mail kikakuka@adm.fukuoka-u.ac.jp
賛助金額:1口1,000円(何口でも可)
申込期間:本年2月10日まで



衛藤副学長、日本交通学会賞を受賞

10月23日、衛藤卓也副学長(商学部教授)の著書「交通経済論の展開」が交通学会に貢献したことが高く評価され、日本交通学会賞を受賞されました。



第3回ホームカミングデーを開催

大学と卒業生の絆を深めるホームカミングデー(卒業生の集い)が、11月3日に開催されました。第1部は60周年記念館のヘリオスホールで講演や交響楽団の演奏などがあり、第2部は文系センター棟スカイラウンジで懇親会。今年は特別に地下鉄福大前駅の見学も行われました。好天のもと400人近い卒業生をお迎えしての盛大な集いでした。



スポーツ科学部と早良高等学校との協定、締結

県下でも数少ない体育コースを有する県立早良高等学校と本学スポーツ科学部が連携教育などを実施する協定を締結、11月2日にスポーツ科学部会議室で調印式が行われました。今後、早良高等学校への教職員の派遣指導など高大連携事業が活発に行われる予定です。



利用したもん勝ち！ 豊富な 教育施設 No.8

地域医療と、国際交流のための
総合大学らしい施設です。

■福岡大学病院

鉄筋7階建ての本館、4階建ての西別館、救命救急センター棟からなる総合病院。許可病床915床。22の診療科、470人の医師、630人の看護師ほか、総勢1,500人が地域医療活動に貢献しています。

■国際交流会館

地下1階、地上4階の国際交流棟と、地下1階、地上3階の宿舎研修棟・管理棟からなる会館。外国人留学生だけでなく、日本人男女学生も入居できる個室が100室備えられています。



福岡大学病院



国際交流会館



アトリウム



ヘリオスホール



展望ラウンジ



1階ロビー



分奏室



外観

60周年記念館（ヘリオスプラザ）

1994年、創立60周年を記念して建築が計画され、2年の歳月を経て巨大で美しい建物がキャンパスにその姿を現しました。建物の名前は60周年記念館。愛称ヘリオスプラザ。現代日本を代表する建築家・横文彦氏の設計による記念館は、1998年に、日本建築界の最高峰といわれる建築業協会賞本賞を受賞。現在に至るまで福大生の誇るべきシンボルとなっています。

1994年1月に構想発表。 機能と風格を併せ持つ学生会館

学園通信1994年1月号に、当時の宮野成二学長の「年頭の辞」が掲載されています。その中に以下のような一節がありました。「創立六十年周年に当たるとして、十号館南に学生会館の着工を決定した。（中略）広く一般学生、教職員を対象とした機能と風格を併せ持つ学生会館の建築を決定した次第である」一学生のための快適な生活空間、学生生活のための高度の機能と風格を基本理念とする60周年記念館建設は、こうして第一歩を踏み出したのです。設計は、日本を代表する建築家・横文彦氏に委託されました。

方向によって表情が異なる 開放的で透明性の高い空間

横文彦氏は1996年10月号の学園通信に「設計者の言葉」を寄せています。それによると「私たちはまず七隈キャンパスの将来像を念頭に置き、マスタープランからそのあるべき姿を構想しました。（中略）将来、地下鉄の新線開発に伴い、駅前の正面広場とこの中央広場は大学の新しい核としてキャンパスの骨格をかたち作ることでしょう。10年も前から、地下鉄新駅を視野に入れていたのです。さらに横氏は設計コンセプトに関してこう述べています。「多様な内部機能は外観の構成に反映され、それが形態上の特徴となっています。方向によって建物の表情が異なって見えるので、愛されています。」



和室

ヘリオスプラザのここがおすすめ！

ヘリオスプラザ事務室

4階の交流ロビーの奥に「和室」があるをご存知ですか。平日には開放されていますから自由に利用してください。椅子に座って勉強するのもいいし、寝転んで休憩してもかまいません。でもあまりだらしない格好では…(笑)。3階には4室の分奏室があり、防音設備により騒音を気にせずにピアノの練習等ができますので、利用していただきたいですね。5階の大学資料室もぜひ、訪れてほしい。本学の歴史を物語る貴重な品々や写真が多数展示されています。設備によっては許可が必要な施設もありますし、建物内の案内もしていますので2階受付にも、気軽に立ち寄ってください。

もそのためです。（中略）彼ら（学生）が自由にまた気軽に使えるよう、できる限り開放的で透明性の高い空間としています。」
これに先立つ1994年9月には、本学の学生・職員から公募していた愛称が決定していました。「Heleos Plaza」太陽の広場です。ヘリオスプラザは1996年10月1日にオープンしました。

歳月を経て風格に温もりが。 母校への思いを再燃させる場に

さて、その施設概要ですが、同じく1996年10月号に掲載された当時の中野勝之学生部長の文章をお借りします。1階には「カーブを描いた総硝子（ガラス）壁から採光された（ロビー）」を囲むように、書籍やCDを販売する（ヘリオス文庫）、プレイガイドなど各種情報の提供を行う（情報プラザ）、さらには（レストラン・セレーヌ）などがあります。天窓から陽光が降り注ぐ（アトリウム）へ通ずる2階への階段を登ると休憩や談話のために設けられた（ラウンジ）に着きます。（中略）3階には音楽系クラブ希望の（ヘリオスホール）があり、（中略）4階には（小会議室）があり、クラブ等の共同学習や討論会に利用できます。（中略）5階の（展望ラウンジ）内部に設けられた（大学資料室）では、資料に目を通し、建学の歴史をたどりましょう。6階は（ギャラリー）で、絵画・写真等の発表ができます。中野先生は、この文章の冒頭にこんなことも書かれていました。「年輪を刻む

編集後記

携帯電話は今や、生活必需品。時、所を問わず電波が行き交う功罪はありますが、情報を瞬時に伝える利便性は手放せないものがあります。本学も、平成17年度からITを駆使した情報化の環境を順次整備し、大学生活がさらに快適で効率の良いものになっていくこと大きな期待が寄せられます。
一方、博多人形のように、気の遠くなる時間を費やして完成して、いくものもあります。ITとはおよそ無縁な世界で、細部にわたってつとつと心を込めて形にしていくなり、電波にはない人間の温もりを感じます。絵画にしても、作品の顔には創り手の思いが出てくるといわれますが、小副川氏のそれは奥様の顔になります。これからのいろいろな作品を見るとき、創作者の人物を想像してみても鑑賞のつぎになるでしょう。

平成16年は、国際紛争テロ、台風地震と、地球中の人々を恐怖と不安に陥れさせた年でした。新年が、平和で争いもなく、人の心も豊かになる「暁（あかつき）」になればと願うばかりです。



小副川祐二氏取材するFD編集スタッフ

FD FINE DREAM 2005年1月号 VOL.8

編集・発行 福岡大学広報委員会

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19-1 TEL092-871-6631 (代)
http://www.fukuoka-u.ac.jp/